

みなみみのわ 議会だより

No. 152
2026.2.1
発行



中学生議会 2025! 開催

村議会議場にて
中学生議員のみなさん

一般質問動画 配信中

QRコードから各議員の一般質問動画が
観られます。

インターネット村ホームページ→村議会→
本会議録画中継→定例会



中学生議会2025!	P2~3
12月定例会	P4~5
一般質問	P6~10
議会活動(視察・懇談会など)	P11~13
お知らせ(広報モニター、若者議会)	P14~15
キラキラ村の仲間たち (上農高校里山コース)	P16~17
モニターの声	P18

中学生議会2025!

10月14日に南箕輪中学校3年生5人が議員として一般質問を行い、議長・事務局長も生徒が務めました。今年は1クラスずつ議場内に生徒が入って傍聴しました。

動画は →
こちらから



さかい あやか
酒井 彩夏
議員

問 学級で通学バスを利用したいという声が多くある。通学バスには乗車人数の限りがあると思うが、希望者が多すぎた場合には、どのように対応する考えであるか。また、料金支払いに関わる定期券やサービス券の発行について、現時点で具体的に決まっていることはあるか。

村長 令和8年4月から、現在のまっくんバスを通学と通院に特化した形で運行する予定である。対象は高校生と高齢者で、運行時間は朝と夕方に絞る方針。運行ルートはまだ決定していないが、高校へのルートや病院を通るルートなど、なるべく短時間で目的地に着けるよう検討している。現在のバスは定員26名であるため、乗り切れない可能性もある。そのため、まずは来年4月に運行を開始し、状況を見ながら必要に応じてバスの大きさなど計画を見直していく考えである。また、定期券の導入も検討している。

☆感想

一般質問の一番最初だったこともあって、真ん中に立った時に頭が真っ白になって正直ちゃんと原稿を読めたかとか、村長さんが言ったことも覚えていないです。覚えていないけれど、ちゃんとクラスで出した質問に納得いく回答をもらえたことが一番いい経験だったし、村や国の政治の仕組みもわかったような気がしました。



しみずち はや
清水千隼也
議員

問 クラスでユニバーサルツーリズムに着目して調査を行った。村ではどのような取り組みを進めているのか。

村長 誰もが気軽に観光を楽しめるよう、大芝高原のユニバーサルフィールド化に力を入れている。ユニバーサルツーリズムマップを作成し、マップを基に段階的に整備を進める予定である。将来的には「ユニバーサルフィールド・コンシェルジュ」の窓口設置も計画している。

問 車いす利用者の視点から調査してみたところ、味工房から湖側へのスロープ設置や、マレットゴルフ場付近の砂利道を舗装すれば、より利用しやすくなると思われるが。

村長 車いすは味工房入口の階段手前で左に進み、Uターンしてトイレ前を通るルートを示す案内表示が無いので、案内看板の設置が必要である。ウッドデッキの改修と合わせて、スロープを計画的に検討したい。マレットゴルフ場付近の砂利道は利用頻度から見ると、優先度はやや低いですが、全体計画で整備について検討を進め舗装など行っていく。

☆感想

ずっと緊張しっぱなしでした。質問するときも頭が真っ白でしたが、今回の質問やいただいた答弁が南箕輪の未来に役立てばいいなと思っています。



よしかわ りん
吉川 凛
議員

問 村の広報をSNSに広告を出す形で行ってはどうか。広告の費用はクラウドファンディングを活用して資金を集める方法もあり、より多くの年代に情報が届くのでは。

村長 SNS広告については、年齢や地域などで対象を絞れるため、有効な手段である。現在の広報では10~20代への到達が弱い点は課題である。若い世代向けの情報配信にSNS広告の活用も検討したい。クラウドファンディングは、日常的な広報費用を賄うには向かないが、イベントなどであれば選択肢となる。

問 クラウドファンディングを使って資金が増えれば、子育て世代に向けたイベントを増やしたり、拡充することで、村が活発で明るい雰囲気になると期待できるがどうか。

村長 子育て世代などのターゲットに向けて情報を発信することで、興味や関心のある方に情報が届き、参加者の拡大につながる。費用対効果などの有効性を検討し、実施に向けて努めたい。

☆感想

思ったより緊張はしなかったけど、終わった後にどっと疲れた感じがしました。たくさんの大人の前、村の責任ある方々の前で発言したり自分達の意見を話したりする機会はなかなかないので、貴重な経験ができてよかったです。



まるやま こうすけ
丸山 康介
議員

問 まっくんを有名にして村の知名度を高めようとしていると聞いたが、どのような取り組みや案があるのか。

村長 2011年ゆるキャラグランプリで全国最下位だったことを逆手に「日本一人気のないキャラ」として前向きに発信したことで、TVで取り上げられ知名度が上がった。現在はグランプリへの参加は辞退し、地域密着のPRに力を入れている。

問 村でまっくんを人気者にしようという取り組みはあったのか。また、どのような方法で人気向上を目指したのか。

村長 イベントでのPR、デザインの積極活用、LINEスタンプの制作、広報誌やウェブサイトへの掲載、オフィシャルサイトやXでの情報発信、グッズによるPR活動がある。最近ではSNSで取り上げられる機会が増え、イベント出展時にはグッズが買い占められるほどの人気が出てきている。

☆感想

村に自分たちの意見を直接言える、貴重な機会だった。友達と「もっとこうなったらいいな」と話すのではなく、自分の意見が村長さんや開発公社さんに届いて実現できるかもしれない。そんな嬉しさもありました。緊張しすぎて台詞を飛ばしてしまったけれどいい経験ができました。



よしおか さな
吉岡 沙那
議員

問 南箕輪村をPRする取り組みの1つとして「ブラメシフェス」が開催されているが、家庭で出されることがないことから、ブラメシは観光客向けの企画なのか。

村長 ブラメシは松枯れ危機のなかで「枯れる前に活用していくべきだ」との提案により始まった。観光協会が中心になり、飲食店や食品事業者と協力して、アカマツの食用炭を使ったメニューを開発。将来は村の特産品としてPRすることで、観光客向けになると考えている。

問 村民に愛着を持ってもらい、観光客に村をアピールできるように、各施設に合ったまっくんをデザインした看板を設置してみてもいいか。

村長 デザインの活用は役場の担当課で南箕輪村を広くPRするために公募型でさまざまな取り組みを行っている。まっくんキッチンのデザインも、公募で村の小中学生から寄せられたアイデアから作られた。

☆感想

あまり経験できないことをでき、とてもうれしく思いました。村に中学生が意見を言えるということを経験でき、大人と対等に議会ができてよかったです。自分たちの活動で村をよりよくするために提案内容を考えたが、それを反映させることは難しいと思いました。

議長・事務局長

あるが はるま
有賀 悠真
さん



感想 最初は緊張で頭が真っ白になってしまいましたが、議会が進むと慣れていって、途中からはスムーズに進行することができたのでよかったです。

うめだ しおり
梅田 志織
さん



感想 議長、事務局長という貴重な経験ができてうれしかったけれど、次の日、足が筋肉痛になるくらいガチガチでとても緊張しました。

担当 松田先生の感想

中学生議会では、自分たちが調べたことや考えたことを伝えることができました。今年度は、議員役以外の生徒も議場に入り、雰囲気を楽しむことができました。

傍聴した生徒の感想

議会を通して村の楽しい行事とか細かい重要な事項を決めてくれるんだなって思ったし、参加してみてもこういう雰囲気好きだなんて思いました。(唐澤和華菜)

学校でも生徒総会はあるけど、本格的な議会新鮮だった。どのクラスの代表もわかりやすい質問でした。(岸田真奈)

議場に入った時にその雰囲気に本当に驚いた。言葉遣いも普段は使ったことがないような言葉が使われていてすごいなと思った。(原柚音)

質問する人たちはしっかりした質問でよかった。あそこに立つのはとても緊張すると思う。(大槻虹)

村長さんが細かいところやアドバイスを丁寧に応答してくれていたのが嬉しかった。(竹野慶)

豊かな自然 つながり育み

12月定例会では15議案すべて原案のとおり可決。陳情1件が採択され、意見書2件が採択されました。

12/1~19 令和7年12月定例会 (議案名はわかりやすく簡略表記しています)

条 例	賛成	反対	結果
消防団条例の一部を改正する条例 ▶村内で勤務、在学する人も対象とするため	8	0	可決
児童福祉施設の設備及び運営に関する基準等の整備に関する条例 ▶虐待への通告義務や乳幼児の健康診断に関すること	8	0	可決
村農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例の一部を改正する条例 ▶中立委員以外の農業委員を1人増員して定数12人にする	8	0	可決
南箕輪村乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例 ▶こども誰でも通園制度に伴う条例の創設	8	0	可決
村議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例等の一部を改正する条例 ▶村長、副村長、教育長、議員の報酬を3%増	8	0	可決
一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例 ▶人事院勧告を踏まえた給与の改定	8	0	可決
補正予算			
一般会計補正予算(第7号)	8	0	可決
介護保険事業特別会計補正予算(第3号)	8	0	可決
国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	8	0	可決
後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	8	0	可決
一般会計補正予算(第8号)	8	0	可決
水道事業会計補正予算(第3号)	8	0	可決
下水道事業会計補正予算(第3号)	8	0	可決
その他			
南箕輪村第6次総合計画の策定について(特別委員会にて調査) ▶令和8年度からの総合計画を策定するため	8	0	可決
南箕輪村公の施設の指定管理の指定について ▶指定管理者の指定期間満了に伴い、新たに指定管理者を指定	8	0	可決
議会提案			
広く国民の意思を反映した衆議院議員選挙制度の実現を求める意見書 (提出者:百瀬) ▶意見書に反対:西森 国会議員の定数を削減すべき、意見書を出す必要はない。	5	3 (西森 (都志) (太田)	採択 ↑意見書
請願・陳情			
診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬10%以上の引き上げを求める陳情書 ▶福祉教育常任委員会は採択	8	0	採択 ↑意見書



定例会最終日の動画を
こちらからご覧いただけます

夢かなう 南箕輪

第6次総合計画が決まる!!

1/13 令和8年第1回臨時会 (議案名はわかりやすく簡略表記しています)

	賛成	反対	議決結果
一般会計補正予算(第9号)	8	0	可決
工事請負契約の締結について(村民センター舞台照明LED化工事) ▶有限会社唐澤電気 80,300,000円	8	0	可決

第6次総合計画調査特別委員会

12月11日に特別委員会を開催し、「第6次総合計画」について、各担当部署から計画内容の詳細説明を受けました。



議員から村への質問を少し紹介

問:人口推移の情報が古く、現在は減少しているが更新されるのか?

答:情報は国勢調査を基にしている。1~2年の推移だけでは減少とはまだ言えない。

問:リニアや三遠南信道路の開通はこの計画期間外だが、どう位置づけているか?

答:将来を見据えた広域交流の促進として記載している。

問:太陽熱や地中熱利用の情報提供については?

答:給湯循環システムなどを選択肢としている。

議会からの意見

議会としても、初めての総合計画検証であり、今後の議会活動でも、計画を見据えて村民の声をしっかり届けていくことが求められます。むらづくり委員会のみなさんの長期間かけての策定のご苦労に深く感謝申し上げます。

特別職と議員の報酬

特別職報酬審議会の答申を踏まえ、R8年4月から特別職と議員の報酬が3%増額されます。

特別職

村長	月額 762,200円	➡ 785,000円
副村長	月額 647,800円	➡ 667,000円
教育長	月額 552,000円	➡ 568,000円

※特別職3名分で年間約90万円増額。
※額面は総支給額です。

議員

議長	月額 308,000円	➡ 317,000円
副議長	月額 241,000円	➡ 248,000円
委員長	月額 230,700円	➡ 237,000円
議員	月額 221,500円	➡ 228,000円

※議員9名分で年間約95万円増額。
※額面は総支給額です。

加藤泰久議員が辞職

一身上の都合により、10月23日付で議員を辞職しました。この辞職によって1名欠員となり、現在の議員数は9名となりました。





問 役場窓口に軟骨伝導イヤホンの設置を

答 前向きに検討する(村長)

三澤 澄子

問 聴覚障がいについて、乳幼児から高齢者まで把握しているか。

村長 乳幼児は健診時に検査を行い、異常があれば医療機関につなぐ。小学生は補聴器使用者が1人、聞き取りにくい児童が2人、中学生は補聴器使用者が1人、聞き取りにくい生徒が9人である。成人では身体障害者手帳所持者40人、高齢者は1割程度が難聴とされている。

問 各段階での適切な支援は行っているか。

村長 小中学生については学校検診を通じて医療機関につなげており、座席配置など日常的な学習環境への配慮を行っている。

問 村の補聴器購入費助成事業は高齢者に限定されている。対象年齢を18歳以上に拡充し、再申請や補助額の見直しが必要では。

村長 身体障害者手帳を所持する人には補装具購入補助がある。中等度難聴については18歳未満を対象とした補助があるが、18歳以上には制度がない。村の助成についても、年齢要件の拡充や再申請の可否など、具体的に検討する。



軟骨伝導イヤホン役場窓口に

問 手話通訳者の人材育成、処遇について手続策推進法に基づく支援が必要では。

村長 県の登録者名簿を活用し、必要に応じて業務委託を行っている。伊那圏域には手話通訳士2名、手話通訳者12名が登録されており、村内には通訳士1名が在住。R6年度は伊那市社

会福祉協議会に委託し、手話通訳者養成事業を実施し33名が受講。活動手当は1時間2,000円のほか、移動時間やガソリン代等の規定がある。

問 災害時の情報弱者対策として避難所での手話通訳者を配置しては。

村長 手話通訳者配置に関する村のガイドラインはない。災害時に防災無線が聞こえないといった課題があり、防災訓練への参加等、関係者との懇談を通じて理解を深めてきた。今後も聴覚障害者協会と連携し、安否確認などについて危機管理課と情報共有を行っていく。

問 障がいの有無に関わらず共に学ぶ学校教育における、インクルーシブ教育の位置づけは。

教育長 総合的な学習の時間において、障がいのある人を正しく理解し、どのような支援が必要かを学んでいる。子どもから大人まで、他者を理解し違いを認め合いながら温かい人間関係を築く「社会力」を発揮するプロセスが、インクルーシブ教育につながると考えている。

地球温暖化対策実行計画(区域施策編)

問 ゼロカーボンに向けてR8年度太陽エネルギー利用設置補助制度の取り組みは。避難所への蓄電池導入計画は。

村長 R7年度の住宅暖熱リフォーム補助に加え、太陽光発電設備については、R8年度当初予算において国・県補助金を申請し、活用できる制度を広報していく。避難所への蓄電池導入については、計画的に進めていく。

問 木質バイオマス村計画の進捗状況は。

村長 大芝の湯のリニューアルに合わせ、木質バイオマスボイラーの導入を計画している。本体2,300万円、工事費8,700万円、機械費3,100万円について、第2世代交付金を活用する。アカマツや松枯れ材を利用する計画である。



問 農福連携の今後の方向性は

答 マッチング支援等検討を進めたい(村長)

太田 篤己

問 農業者と福祉事業所のマッチング支援を行う考えはあるか。農福連携は村の農業の課題を補完しうるものであり、今後の方向性は。

村長 農福連携は、障がいのある人の社会参画を促進するとともに、農業分野における新たな働き手の確保にも寄与する重要な施策である。長野県セルフセンター協議会の活用も有効な手段の1つである。農業分野では、営農関係団体や「まっくんファーム」などの意向を把握し、障がい福祉分野では、就労支援事業所の考えや課題を確認することから取り組みを始めたい。関係機関と連携し、本村の実情に即した農福連携のあり方について、マッチング支援も含め検討を進めていく。

問 圃場の集約化の現状と今後は。

村長 R6年度末の認定農業者など中心的経営体への利用権設定による貸借および農地中間管理事業等による農地集積面積は約496haで、農地全体の55%となっている。第6次総合計画では、5年後の担い手への集積率を60%とする目標を掲げている。村としては、地元での動きがあれば国や県とも連携し、補助事業の研究や必要な助言、支援に取り組んでいきたい。

問 本村の農業は米作主体であるが、扇状地で狭小な水田が多い当地域では多様な作物の栽培が向いている。今後の多様化戦略は。

村長 村では「風の村米だより」以外に、アスパラガス、スイートコーン、白ネギ、ブロッコリーを農業再生協議会で定めた振興作物として位置づけ、多様化を図っている。今後も、圃場条件、担い手の状況、作物特性、市場動向などの視点から検討し、農業の持続的発展につなげていきたい。

問 農業の担い手の組織化を促進するための

施策、支援策は。

村長 村の中心的担い手である農業法人「まっくんファーム」とは、人的支援を中心に意見交換を行い、村としての支援を本格的に検討していく。現在、農地所有適格法人等に対して、国や県の補助金の案内や申請書類作成支援を行っており、今後も継続していく。

森林資源の有効活用

問 本村は飛び地をはじめ、豊富な森林資源に恵まれているが、その有効活用の考えは。

村長 価値の低い材は木質チップとして活用し、価値の高い材は市場に出材する考えである。公共施設建設等への活用も進めているが、一定の限界もある。中長期的な視点に立った計画と、国・県の交付金等を活用した方法を検討する。

問 森林資源の活用を地域づくりの柱として進めていくため、林業・林産業の人材育成は欠かせない。現状と今後の取り組み、支援方針は。

村長 現在、村内に林業を専門とする事業者はなく、建設業において林業関連作業の指名願いを提出している事業者が2社のみである。林業従事者数はR2年時点で14人(村政要覧)。今年度から初めて地域林政アドバイザーと契約した。村からの森林関連委託費も増加しており、今後は直接的な仕事づくりを進めることも重要であると考えている。





問 中学校第1グラウンドにトイレを

答 R9年度に整備予定で進めていく(教育長)

百瀬輝和

問 中学校第1グラウンドにトイレが無いが、トイレの利用はどうしているのか。

教育長 第1グラウンドを使用する授業や部活動がある際には、事前にトイレを済ませるよう指導している。また、休日の地域クラブ活動では、村民体育館や中学校体育館のトイレを使用している状況である。トイレまでの距離があり不便な状況であることは承知しており、大変心苦しく感じている。

問 関係者から要望のあるトイレ整備を行う考えはないか。

教育長 不便さを解消するため、R9年度に整備する計画を進めている。第1グラウンドは指定緊急避難場所となっていることから、災害時にも避難場所として機能する整備を検討していく方針である。関係者の意見を確認しながら、どのような仕様・形式が適切か検討を行い、整備を進めていく。



中学校第1グラウンド

大芝荘の今後

問 大芝荘の今後の利活用について問う。

村長 大芝荘は、利用者の減少に加え、新型コロナウイルス感染症の影響が重なり、R3年6月14日から休業している。休業後は、教育委員会が所蔵する文化財の整備や虫干し・陰干し作業のほか、一部を展示会場として活用してきた。現在、建物は老朽化が進み、雨漏りや給排

水設備の不具合も確認されている。宿泊施設として再開するためには相応の修繕が必要であり、現時点では慎重な判断が求められる状況である。こうした経緯を踏まえ、当面の間は余裕財産として保持し、次の3点を柱として進めていく考えである。第1は、文化財の整理・保存・可視化の拠点としての利用。多くの文化財が分散しており、その整理・保存環境の整備は重要な課題である。第2は、将来的な郷土館的機能。文化財の展示や保管に適した空間を一定程度備えており、郷土資料を体系的に整理・紹介する場としての可能性がある。第3は、災害時のボランティア受け入れ拠点としての活用。大芝高原は指定緊急避難場所であり、必要に応じてボランティアが寝袋を用いて宿泊できる寝床や休憩スペースとして活用できるよう備えていく。村の文化財の可視化や整理、災害対応の拠点として活用しながら、余裕財産として維持し、その将来像を慎重に見極めていく考えである。

最低制限価格のルールと入札辞退の対策

問 村が発注する指名競争入札において、設計・コンサル業務の辞退が多いことへの対応は。

副村長 村では計画的に工事等の発注を行っている。指名業者の辞退が多い場合、競争性が低下し、適正な価格競争が行われなくなる恐れがあり、望ましい状況ではない。競争性を確保するため、担当課において入札前に、積算単価が適正であるか、工期が現実的であるか、また配置技術者の要件が過度なものとなっていないかなどについて確認している。必要に応じて、上伊那広域連合の土木振興課や長野県住宅供給公社等へ照会を行い、設計書や仕様書の精査に努めていく。



問 各区に事務局を設置しては

答 集落支援員による支援体制を進める(村長)



西森一博

問 地区ごとに「事務局」を設置し、日常的な業務を担うしくみを導入する考えはあるか。

村長 地域コミュニティは非常に価値あるものであり、村としても投資を行い維持していく必要がある。今年度から自治会業務を担う「集落支援員」の配置を開始した。先行して配置した北殿・田畑区では、地元住民が事務や環境整備を担うことで、役員の負担軽減につながっている。全12地区へ配置されれば、実質的な事務局機能が整うこととなる。今後も各区の実情や要望をていねいに聞き取り、支援員制度を通じて事務局的な活動を支えていく。

問 自治会の担い手が減少する中、草刈りなどの活動を持続させるため、住民の力を「有償ボランティア」として活用するしくみについて、村長の見解は。

村長 公園や公民館周辺など、公共的な場所において住民が有償ボランティアとして作業を行うことに異論はない。本村は自然が豊かで整備範囲が広く、すべての環境整備を業者委託で行うことは財政的に不可能である。環境維持には、これまで通り地域の協力が必要だ。その上で、地域の負担軽減策として、対象範囲を明確にし、公共性の高い内容を優先して有償ボランティアを活用することは一案である。



環境整備をするボランティア

AI(人工知能)の活用

問 AIを導入している業務はあるか。また、検討中の分野や今後の方針は。

村長 現在、音声文字起こしツールによる議事録作成の効率化や、中学校でのAI採点支援システムによる教員の負担軽減など、AI技術の活用を進めている。今後は、対話型生成AIツールの導入を検討していく。

問 住民サービスの向上という観点から、AI導入をどのように考えているか。

村長 職員を単純な定型業務から解放し、人が担うべき判断業務や地域課題の解決に集中することで、住民サービスの向上が可能になると考えている。

問 教育現場におけるAIの活用について、教育委員会の考え方や方針は。

教育長 文部科学省の指針に基づき、教育現場での生成AI活用を「人間中心」の視点で進めていく。教員の働き方改革と指導力の向上を目指すとともに、児童生徒については、AIのしくみや使い方を学ぶだけでなく、教科の学びに生かす力を育てていく。

問 AI時代の情報リテラシー教育や、虚偽情報への対応は。

教育長 子どもたちが被害者にも加害者にもならないための情報モラル教育を強化する。情報の真偽を見極める「ファクトチェック」能力や、正しく理解するための「読解力」の習得。また、著作権の遵守、一度発信した情報は消えないといったネットの特性、社会への影響を考えさせる学習活動を段階的に展開する。変化する情報社会に対応し、地域や学校の実情に即した教育環境を整えていく。



問 中学生に防災や消防事業への参加を

答 若い世代に参加をのぞむ(村長)



唐澤由江

問 各地で中学生による消防・防災への取り組みが進められている。テレビ番組では、中学生が消防団とともにAEDを用いた訓練や心臓マッサージに取り組むようすが紹介されていた。休日や下校後に活動する姿は、将来の消防団のなり手不足解消につながるだけでなく、ボランティア活動やコミュニティ活動の醸成にも寄与する可能性がある。こうした取り組みについて村の考えは。

村長 大芝高原まつりでは「防災コーナー」を設け、消防車両への試乗や放水体験などを実施している。また、出前講座として、防災の基礎知識、救護・救急、炊き出し体験等を学校に出向いて行っている。中学生も、炊き出しや初期消火などへの参加は可能である。中学生の若い意見を取り入れ、地域住民の一員として防災訓練に参加することは非常に重要であり、未来を担う中学生の参加は地域防災力の向上につながる。



大芝まつり防災コーナー

問 東京都荒川区では、中学生の防災士資格取得に対し、受験料・登録料を全額補助している。防災士は、日本防災士機構が認定する民間資格であり、災害に関する知識と実践力を備

え、「自助・共助・協働」の原則に基づき、地域や職場で防災リーダーとして活動する人材である。村でも同様の取り組みを行う考えはあるか。

村長 荒川区の取り組みは珍しく、12歳から18歳を対象とした資格取得補助を今年度から実施しており、非常に意義深い。村としても今後研究していきたい。多くの防災士とともに行動することで、世代間の知識や経験の伝達にもつながると考える。

カスタマーハラスメント対応マニュアル策定

問 村にもカスタマーハラスメント対応マニュアルが必要ではないか。行政サービスの利用者等から職員に対し、その業務に関連して行われる著しい迷惑行為への対応について問う。

村長 村においても威圧的な言動や深刻な事例があり、これまで研修会を実施してきた。今後、対応マニュアルを策定する予定である。10月31日に県が実施した「カスハラゼロ宣言」や国の動向も踏まえ、職員が安心して仕事に専念できる環境づくりを進めていきたい。

いじめ・不登校対策

問 いじめ・不登校対策について、教育長の抱負を問う。

教育長 いじめ防止には、子どもの心を育て、思いやりの心を大切にすることが基本である。人の悪口や陰口を言わない姿勢を育み、いじめが起きた場合はチームで対応し、心身の安全を最優先に確保する。互いの違いを認め合い、居心地の良い関係づくりを進めたい。不登校については、心身の不調により長期欠席となる子ども一人ひとりに寄り添い、個別の支援を行う。居場所づくりや環境整備を進め、子どもの成長を支え、社会的自立につなげていきたい。

9/30~10/1 総務経済常任委員会 岐阜県高山市・下伊那郡高森町視察

7月の視察に続き、木質バイオマスボイラーの先進地域である、岐阜県のひだ荘川温泉「桜花の湯」、下伊那郡高森町の「御大の館」視察を行った。

岐阜県 ひだ荘川温泉「桜花の湯」

高山市にある日帰り温泉施設、「桜花の湯」では、木質バイオマス供給事業について説明を受けた。指定管理は荘川観光協会、設備導入は井上工務店が行い、施設側は熱代金を20年間の契約で買い入れるしくみとなっている。木質バイオマスボイラー4基を使用し、不足する部分は灯油ボイラーでバックアップを行っている。井上工務店が自社の製材過程で出る端材をチップ化し、直接供給していた。



高森町 信州たかもり温泉 御大の館

2基の木質バイオマスボイラーが稼働しており、チップの乾燥状態による機器の故障等について聞くことができた。

10/20~22 福祉教育常任委員会 石川県能登町視察

令和6年度社会福祉大会での講演を受け、能登町の被災状況を把握するとともに、春蘭の里、日本海倶楽部(佛子園)、能登町社会福祉協議会の各施設を訪問した。



能登町社協

ボランティアセンター立ち上げに時間を要した経緯や、建築専門家の不足による迅速な建物安全調査の困難さが大きな課題として挙げられた。



日本海倶楽部(佛子園)

障がい者が働く地ビール製造やレストラン運営を通じて、工賃アップと地域共生を実践。「ごちゃまぜ」の環境創出のための複合施設運営とリーダー人材の育成に注力している説明を受けた。



春蘭の里

水素を利用した発電や浄化槽による独自のインフラ体制を視察。また、農家民泊の拠点ネットワーク構築の説明を受けた。

すべての訪問先で、長野県からの支援に対する感謝の意が示された。このことは、「お互い様」の精神で、県境を越えた助け合いの大切さを改めて痛感する機会となった。

11/7 福祉教育常任委員会 介護・福祉施設との懇談会

福祉教育常任委員会では、村内の介護・福祉施設の代表者と懇談を実施し、現場の実情や課題について聞いた。多くの施設で共通していたのは、物価高や最低賃金の上昇にもかかわらず報酬単価が据え置かれているため、経営が厳しくなっているという現状。さらに深刻な問題として、人材確保の難しさが挙げられた。福祉・介護職の賃金水準が低いことから、若い世代の関心が薄く、結果として人材が集まらず、高い離職率につながっている。また、障がい者の就労支援においては、一般就労への移行が難しく、企業側の理解促進が大きな課題とされていた。



子どもたちに福祉の仕事を知ってもらうための、職業体験フェスやPRイベントがあったらいいです!!

11/20 議会運営委員会 長野市・富士見町視察

長野市議会と富士見町議会を訪問し、BCP(事業継続計画)と政治倫理条例の取り組みについて聞いた。

長野市議会では、旧行動マニュアルを廃止してBCPに統合。政治倫理条例では、議員や住民からの規範違反者の審査請求体制を整えていた。

富士見町議会では、議場でのヤジなどの問題を契機に政治倫理条例を制定し、ハラスメント規定も設けているとのことだった。今回の視察は、南箕輪村議会における簡潔で運用しやすいBCPと、SNS・ハラスメント対応を含む政治倫理条例の検討に参考になった。

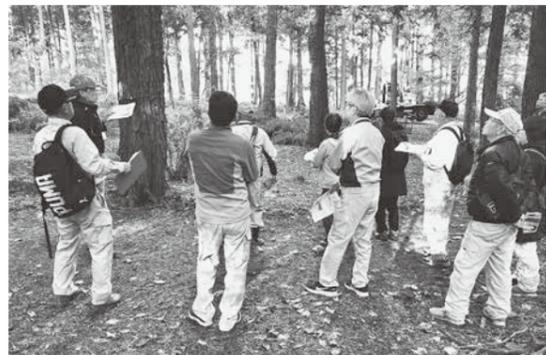


10/15 区長会と議会の懇談会

区長会と議会で懇談を行い、各区長からさまざまな意見や要望が出されました。それらをまとめ、12月25日に議会からの要望として村へ提出しました。皆さまからいただいた声は、今後とも議会としていねいに受け止め、村へしっかり届けてまいります。



10/27 大芝高原「みんなの森」視察



「みんなの森」アカマツ伐採の現状を視察し、将来に向けた森の樹種転換の説明を受けた。

11/4 自治政策課題研修



研修にリモートで参加した。移住だけでなく、地域との関わりを持つ「関係人口」を増やすための取り組みについて学んだ。

11/10 町村議会広報研修



議会だよりの取材方法や記事の構成など、広報の具体的な手法について学んだ。

11/25 伊北議員研修会



箕輪町の「子どもが主役の学校づくり」について研修し、安心できる学びの場や地域と連携した子ども主体の教育の取り組みを学んだ。

令和7年12月25日

南箕輪村長 藤城 栄文 様
南箕輪村教育長 尾形 浩 様

南箕輪村議会議長 笹沼 美保

区長会との懇談会をもとにした要望書

南箕輪村議会では、毎年区長会との懇談会を実施しており、今年度も令和7年10月15日に実施しました。その際出されたご意見・ご要望の中から、下記のとおり村民が抱える問題の解決に資する事項をまとめましたので、村として検討・対応していただくよう要望します。

記

1. 区が担う行政協力業務の負担に対する委託料の見直しをされたい。
2. 高齢化による人材不足が問題となっているまっくん除雪隊の手当を増額されたい。
3. 各地区の神社仏閣を村の文化財として後世に残すため、維持・修繕に対し村からの支援をされたい。

貴重なご意見
ありがとうございます
ございました



広報モニター 大募集!

議会だより&議会ホームページをより良くするために、ご協力いただける方を募集します。

応募しめきり **令和8年2月末日**

※応募多数の場合は選考となります。

募集概要

- 南箕輪村在住
- 募集数：10名
- 任期：2年
- 謝礼あり
- 年4回発行の議会だよりに関するアンケートへの返答
- 議会ホームページに関するアンケートへの回答
- 議会広報に関する意見交換会への参加（任期中1回を予定）

応募される方は、議会ホームページに掲載の応募用紙を記入の上、議会事務局に提出をお願いします。締め切り後、選考結果を連絡させていただきます。

広報モニターとは

お問合せ・応募先

南箕輪村議会事務局 電話 0265-72-2361 FAX0265-72-2463
E-mail: gikai-d@vill.minamiminowa.lg.jp



南箕輪村議会に行ってみよう!

- どなたでも傍聴できます。（当日、氏名と住所を記入）
- 静かに傍聴してください。



傍聴席

南箕輪村議会を見に来てみませんか? 次の議会は **2月26日（木）** 開催予定
村の未来や日々の暮らしに関わる大切な話し合いが、議場で行われています。 ※決定日時はホームページか議会事務局にお問い合わせください。



若者議会2026! 参加者大募集

- 開催は令和8年7月の平日夜を予定（事前にリハーサルを行います）
- 南箕輪村在住または在勤・在学の18歳～40代の方（定員5名）
- 報道関係、議会ホームページ等への写真・動画の公表に了承いただける方
- 応募締め切り **2026年4月末**

詳細・お申込みは
こちらから



伝える、若者の本音。

村に対しての質問や意見・要望など、あなたの想いを議場で伝えられます。

お問合せ・応募先

南箕輪村議会事務局 TEL 0265-72-2361 メール gikai-d@vill.minamiminowa.lg.jp

きらきら村の仲間たち

上農高校編

上伊那農業高校
里山コース

上伊那農業高校恒例のチェーンソー実習が、今年は初めて大芝の森で実施されました。実習のようすと感想、里山コースをご紹介します。

チェーンソー実習のようす



指導した林業師からひと言
すべてが初めての経験だったと思いますが、前向きに積極的に取り組む姿が頼もしく感じられました。



かわしまじゅんいち
山造り舎 川島潤一

里山コース



チェーンソー実習で切った木を使い、電熱コテを使って、好きなデザインで絵を描く授業をしていました。

里山コースでは、生徒が作ったクオリティの高い作品が展示されています。



おおむら はるき
大村 春樹さん
(伊那市在住)

今回の実習の感想は？

初めてのことで、少し緊張したけど、サポートしていただきながら、できました。人生で1回やるかどうかの経験ができました。

大芝の森の印象は？

自然を感じることができる、とても良い場所。走る場所も整っていて良い。

林業にどんな想いを持っていますか？

危険もあるけれど、自然と触れ合える、日本や地球の環境に必要な仕事。

将来の夢や、やってみたいことは？

オリンピック。地域の役に立つ仕事をしたい。

好きなもの チョコレート、果物 **嫌いなもの** 生魚
好きな音楽 RADWIMPS、洋楽 **好きな言葉** 挑戦



きたはら だんぞう
北原 暖三さん
(駒ヶ根市在住)

今回の実習の感想は？

初めてチェーンソーを触って、最初はチェーンソーに対して怖いイメージがあったが、やっていくうちにチェーンソーの便利さを感じた。自分で1本の木を倒せた時の達成感が大きかった。

大芝の森の印象は？

自然豊かでいいところ。大芝公園楽しい。

林業にどんな想いを持っていますか？

山の整備を行う重要な仕事。

将来の夢や、やってみたいことは？

森林組合とか林業に関わる仕事に就職したい。

好きなもの イチゴ、水泳 **嫌いなもの** 鍋に入っているネギ(ぐちゃっとして嫌だ)
好きな音楽 ONE OK ROCK **好きな言葉** やれたら、やるわ



おおや りょうた
大屋 亮太先生
(伊那市在住)

今回の実習に至った経緯を教えてください。

毎年2年生で行っている実習であり、今回から場所が大芝に変わりお世話になりました。とても良い場所でした。

今回の実習で生徒たちに何を感じ 学び取ってほしいですか？

自然との関わりや、森林の整備の大切さを感じてほしいです。今、熊の被害が全国で話題になっていますが、里山と自然、人間社会とのつながりを実習を通して学んでほしいです。

今後の林業に期待することは何ですか？

森林大国の日本で林業は必要不可欠な職業です。ぜひ、情報の発信をして身近に感じられるよう期待しています。

生徒たちに一言お願いします。

固定概念にとらわれず、自分の自由な発想を大切に!!
さまざまな人とコミュニケーションを取って柔軟な人間になろう!!

好きなもの お酒、スポーツ **嫌いなもの** 無いです
好きな音楽 ロック、メタル、いろいろ聞きます **好きな言葉** リスペクト





モニターのみなさんから寄せられた議会だより誌面や議会に対するご意見を参考に、より親しみやすい議会だより、また議会になるよう努力してまいります。

議会に対するご意見

- 村内12地区で「村民の声を聴く会」の開催、本当にお疲れ様でした。掲載の写真を見る限り、各地区の参加者がほぼ役員に限られてしまっているのでは？議員の皆様が、手分けにしても、何度も時間を作ることも大変なことですし、できることなら以前の様に村全体に呼びかけ、村民センターで開催してはと思います。その方が役員以外の村民、老いも若きも参加しやすいのでは・・・いろんな方面の声が聞けるかもと思います。
- 村民の声を聴く会ですが、参加者の声にもあったように貴重な意見交換の場なので今後も定期的に開催して欲しいと思います。
- 空調設備や水害対策など、教育・防災分野の取り組みが前向きで現場の課題に向き合っている姿勢はよいと思います。期待しています。
- 中学生議会のような取り組みは素晴らしいです。若者の意見をもっと議会に届ける更なる仕組みづくりに期待します。
- 憲法9条を守っていくため国への投げかけもして欲しいです。戦争を知らない世代に対しての学習会なども企画してほしいです。
- 村長懇談で、大芝にもスクールバスの運行をお願いしたいと母たちがお願いしましたが、検討しますとのお返事でしたが、1年経っても何も動いていない実情です。
- 民生児童委員のなり手不足について、候補者が少ないと同時に任期3年は長いのか、個人情報が多いこともあり1年、2年で信頼して話ができるか、一定の期間が必要であると思います。報酬についても交通費などを含め検討し、改善する時期にあると思います。
- いつからだったか村の公式LINEが変わり、良くなりました。公共施設予約も見やすく利用しやすくなりました。とてもうれしいです！
- 16pにある「バイオマスボイラー視察」の件ですが、上伊那クリーンセンターが稼働しておりますが、その熱利用の運用について知りたいです。又、大芝の湯で取り入れるのなら木質チップだけで無く家庭から出る可燃ごみを使えないか、素人としては考えますがいかがですか。
- 9p「SPS」の認証はとありますが、これは企業版の「ISO」の学校版ですから良いことですが自分も「ISO」の取得に会社で関わってきましたが並大抵の事ではありません。更に教師への負担を強いる事にならないかと懸念されます。慎重に検討された方が良いでしょう。
- 15p「都市計画マスタープラン」の件ですが、村の人口はどんどん増えていき耕作地が住宅地に変わってゆく現状において、村の適正な戸数・人口を知りたいです。それによって①～④まである目標をどう達成し

ていくのか更なる研究検討をしていてもらいたいです。

- 9月定例会の一般質問において、農事組合法人「まっくんファーム」への持続可能な支援について議員から質問があり、村長からは人的支援などにも取り組んでいく旨の答弁がなされたことを拝見しました。私自身も小規模で耕作している農業者ですが、高額な機械の導入は難しく、すでに一部の作業をファームに委託しています。年齢を重ねるにつれ、さらに委託を増やすことや、担い手農家に耕作をお願いすることを考える機会が多くなっております。また、同じような事情を抱え、今後の営農のあり方を模索している農業者は、私以外にも少なからずいるのではないかと思います。議員の皆様には、住民からの多様な要望に日々向き合っていることと思いますが、こうした課題についてもぜひ継続的にご対応いただければ幸いです。
- 大芝の湯に導入される予定のバイオマスボイラーについての視察記事がありました。この中で、スペースの問題、トラブル時の重油ボイラーの併用という課題が指摘されているが、大芝の湯に導入された場合の問題はないかの検証はなされましたか？特に、広大なスペースを必要とする場合、大芝高原の景観を傷つけるような懸念は無いのか？

村への要望

- 区への行政委託料の縮小について
現在、村が進めている区業務のシルバー人材センターへの委託移行と、それに伴う行政委託料の縮小について申し上げます。この施策は、本来意図された区および区民の負担軽減にはつながらず、むしろ区運営に深刻な支障をきたしているのが現状です。実際、ある区では行政委託料が半額近くまで削減され、不足分を補うために区費を引き上げざるを得なくなりました。その結果、財政的な負担が区民へ直接のしかかるという事態が生じています。コロナ禍を経て区の活動が本格的に再開される中、昨今の急激な物価高騰も重なり、区の財務状況は極めて逼迫しております。このような状況下での委託料の大幅削減は、区の存続そのものに関わる深刻な問題です。このままでは、村が目指す「区民の業務負担軽減を通じた活発なコミュニティ活動の推進」が実現できないばかりか、区費負担増による「区離れ」を招くという、本末転倒な結果になりかねません。つきましては、村におかれましては現状の厳しさを直視いただき、行政委託料の増額や制度の見直しを含めた、早急な改善策の検討を強く要望いたします。

編集後記 穏やかな年明けとなりましたが、諸物価高騰など暮らしにくくなっています。世界では未だ争いごとが絶えません。平穏な年になることを望みます。モニターの声を聴きながら皆さまに読んでいただけるよう誌面を充実していきます。(原 源次)



すべての 議会だより
モニターの声 バックナンバー

